

山行報告書

作成: 2007年2月7日

愛知岳連 岡崎山岳会

山名[山域]	丈競山(1045m) [白山周辺]	目的[方法]	純白の白山展望
期間	2007年2月3日(土) ~ 4日(日)	形態	1泊2日(テント携行避難小屋泊)
参加人数	6人		

行動記録:

2/3(土) 快晴のち曇り、微風、4 @龍ヶ鼻ダム

岩津市民C(505) =0:08= 豊田東IC(513) =0:52= 養老SA(605,638) =0:07= 関ヶ原IC(645) =1:01[雪規制]= 杉津PA(746,800) =0:20[雪規制]= 武生IC(820) =0:18[雪規制]= 福井北IC(838) =0:35= 龍ヶ鼻ダムPKG(913,1002) -0:13- 登山口(1015,1020) -0:42- 夏道分岐(1102,1110) -1:38- 尾根の大岩(1248,1325) -1:50- P747m過ぎ(1515) -1:01- 尾根の大岩(1616)TS1 就寝(20:10) 夜半から未明にかけ低気圧通過による曇、強風、雷あり

2/4(日) 曇りのち快晴、弱風、-4 @北丈競山

起床(4:10) TS1(700) -0:45- P747m過ぎ(745,800) -1:13- 北丈競山(913,942) -1:08- 尾根の大岩TS1(1050,1145) -0:50- 夏道分岐(1235,1250) -0:23- 登山口(1313) -0:12- 龍ヶ鼻湖PKG(1325,1352) =0:08= 丸岡温泉「たけくらべ」(1400,1512) =0:26= 越前そば「けんぞう」(1538,1612) =0:05= 福井北IC(1617) =0:18= 武生IC(1635) =1:10= 関ヶ原IC(1745) =0:07= 養老SA(1752,1812) =0:53= 豊田東IC(1905) =0:07= 岩津市民C(19102)

概念図:



日誌:

金曜に寒波が通り過ぎ、天候は穏やかに回復が見込まれ、少し安堵しながら出発した。養老SAで朝食。関が原あたりから前日の降雪の影響から雪規制になる。高速道路周辺の木々は霧氷で薄化粧され美しい。太平洋側は晴天、日本海側は曇天が冬の天気と言うのを実感。

龍ヶ鼻ダムまでの道は積雪は10センチほどである。ダム事務所前の駐車場で、K夫妻と合流。心強い。ダム横の駐車場にP、トイレもきれいでペーパーも完備している。そこからは除雪もされず通行止めになっている。

車道を10分ほど歩き、登山口へ。雪の積もった急な鉄の階段を恐る恐る登る。スタートにしては大変きつい。

天気は徐々に回復し、空は快晴。M嬢が「アマテラスのおかげだ」と連発。杉の木に積もった雪が溶け出し時々、どさっと頭の上に落ちる。冷たい。夏分岐までは積雪も少なく快調。K氏の駄洒落も快調。夏道分岐の辺りから積雪が多くなる。更に雪質が重たく、ストックに付いた雪すら重たく感じられるほどだ。徐々にザックが肩に食い込むようになる。急な登りから尾根沿いに道を取り、新道と合流し少し道らしい道になる。先に通行止めを突破し、新道を登り始めていた先発グループのトレースがあり大変助かる。

分岐より1時間半ほどで、尾根の大岩に到着。ほぼ予定通りの行程である。大岩の標識が雪に埋もれていたが「熊出没注意」の文字が・・・大きな岩が二つあり、風がさえぎられ少し平坦なエリアであった。(後にこのポイントがとても重要になる)ワカンを付け大岩出発10分ほどして、トレースをつけてくれていた2人の男性が敗退して帰ってくるのに会う。

その後の雪上歩行は困難を極めた。トレースのない雪道と、ポッカの量、湿った雪これらの要因が全てプラスされる歩行速度は格段と落ちる。そんな中で先輩のトレースのつけ方を見ながら学ばせていただいた。二度ふみ歩行・周辺の雪を回しいれ踏み込む・ひざで雪を崩し足で踏み込む・ストックを雪上に置きかがんで足を踏み込むなど・・・それにしても重たいポッカを背負いながらの歩行は、足も上がらなくなる。

1:50 P747m地点。遠く北丈競山、丈競山のかわいいロッジを見上げる鞍部付近で、リーダーが先頭にストップをかけた。「今から、40分で頂上まで到達できるか」「頂上までにテントを張れるポイントが見つけれられるか」経験豊かなK氏と協議の結果「敗退」を決定。メンバーの疲労が濃いこと。積雪が少なく、木々が見える山肌では、サイトが確保しづらいこと、

大岩付近がサイト地として風当たりも少なくよいことなどから、引き返すことに決定した。(夜、前線の通過が予想されていた)事前に関大遭難レポートを熟読して臨んだ山行きであっただけに、敗退を決定するタイミングと決断力は雪山ではとても重要であると思われた。図らずも今回よい体験をさせてもらった。

その夜は、8時に就寝。夜来風雨の音。霰、雨落ちること多少。雷稲光2度ほど。寒冷前線が通過後風向きが北に変わる。それでも安心して寝ていられた。

次の日は、5時起床。7時出発。快晴。昨日のトレースの場所まで行く。軽装であるため。早いこと！！登りのトレースは皆身が軽いだけに快調。しかし・・・思わぬ番狂わせが。先頭を軽量の女性陣が行くと重量級の男性陣にはトレースのやり直しになるらしい。お疲れ様。白銀の山を登りながら朝日が登り、「ダイヤモンド丈競」と称す美しさであった。

頂上は「北競山」のはずが標識は「南丈競山」と書かれていた?? 頂上付近の積雪150cm。遠く白山の銀嶺が白く望まれた。目の前の丈競山のかわいい山小屋が間近に見えた。また、今度来ようと思った。下山は快調で途中テントを撤収して2時間ほどで登山口に着いた。雪はすっかり解けていた。

丸岡温泉「たけくらべ」、越前そば「けんぞう」のからみダイコンそばに驚き、大満足して帰宅の途についた。

感想

雪山登山暦の浅い私を、メンバーの方がサポートしていただき感謝しています。自分のことで精一杯の私に対して、皆さんの余裕のある行動に勉強させてもらうことが多々ありました。冬山は持ち物が多いだけに、パッキングの仕方は大変参考になりました。山行きしないときの事前の準備が山での快適な暮らし方につながることを実感しました。